

庚寅文月十日  
無涯塾師範 廣瀬敏男

## 居合の<sup>すきしや</sup>数寄者

来年二月、無涯塾創立十周年を迎え、自分自身居合をはじめ三十五年余も過ぎようとしているが未だ未熟のままで居る。

桑田忠親國學院大學名誉教授の「茶道」に関する著書の中に気になる記述を見つけたのでご紹介しよう。

茶の湯が非常に好きで、それに熱中している者を「<sup>すきしゆ</sup>数寄者」という。これは別に茶匠でなくても、茶の湯が非常に好きなら「数寄者」というわけである。

「数寄者」の条件は、

- ①「胸の覚悟」、つまり精神的な覚悟がしっかりしていなくてはならない。

それから、

- ②「作文」、これは作意のことで、作意をもった工夫のことである。ある程度熟達したら、師匠の教え通りではなく、自分なりの工夫を凝らさなくては「数寄者」とはいえない。

そして、

- ③「手柄」です。手柄は即ち「作文」、工夫が積み重なり、一つの功績となって残るものがあります。戦場で敵の首を取ることは「手柄」ではない。手柄は元来芸道の方の言葉です。

ですから「胸の覚悟」、「作文」、「手柄」の三つの条件が揃っていなければ「数寄者」とはいえない。

茶の湯が好きだけではいけない。それに、非常に打ち込んでいなければならない。

これを、自分が今やっている「居合道」に当てはめてみたとき、「胸の覚悟」については随分適当なものであったし、「作文」は師匠の教えさえ満足に出来ぬ有様である。まして、「手柄」など遠く及びもつかないのが現状である。

更に、御茶湯者の心得の、

一、「志」 二、「堪忍」 三、「器」

の、三つの点をあらためて見直し、修行によって、日頃の生活の中で完成させたいと思っている。

「居合道の数寄者」となれるかどうかは分からないが努力だけは惜しまぬつもりである。特に自分にとっては、「堪忍」と「器」についてが大きな課題である。 了